



WinActor Manager on Cloud Ver.4.0 リリースノート

NTTアドバンステクノロジ株式会社

はじめに



本書ではWinActor Manager on Cloud Ver.4.0で追加、変更された機能について解説します。

各機能の具体的な使用方法については、オペレーションマニュアルも併せてご参照ください。

本書では、WinActor Manager on CloudをWMCと表記します。

WinActor Manager on Cloud Ver.4.0



WMC Ver.4.0 で追加された主な機能を示します。

項目番	項目	概要
1.	MCPサーバー対応	AIエージェントからの指示を「MCPサーバー」機能で処理し、WinActorシナリオを実行する仕組みを提供します。
2.	その他の改善	お客様からいただいたご要望等を元に改善を実施しました。

1. MCPサーバー対応

MCP(Model Context Protocol)とは

MCPは、AIが外部のツールやデータと簡単につながるための「標準的な接続方法」を定めた手順です。AIが社内システムやクラウドサービスと連携し、業務自動化や情報取得をスムーズに行えるようになります。

- AIとツールやデータの橋渡し役
- 標準化された仕組みなので、どのAIエージェントでも同じ方法で連携可能

なぜMCPか

MCPは、外部ツールなどを使うための手順を、AI利用に特化して取り決めたものです。

MCPができるまでは、AIが外部ツールを利用しようとすると、複雑な連携を実装する必要がありましたが、MCPに対応したサービスであれば、MCPを利用することで効率的に連携が実現できます。

1.MCPサーバー対応

なぜWMCにMCP機能を追加するのか

WMCは、WinActorの管理機能として、ユーザーが作った多くのシナリオを管理し、WMCからWinActorに対しシナリオ実行を制御する機能を持っています。

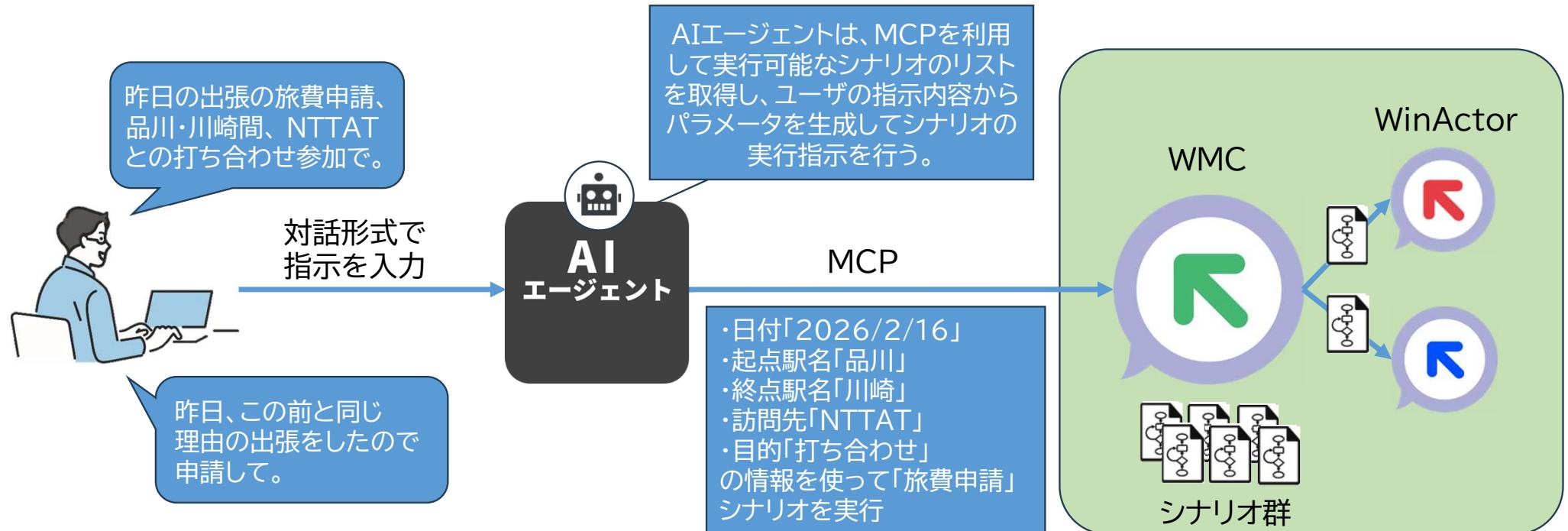
WMCにMCP機能を追加することで、MCPで定められた手順で、実行可能なシナリオのリストをAIエージェントに連携したり、AIエージェントからのリクエストでシナリオを実行できるようになります。

これにより自然言語による指示だけで既存のシナリオ※を活用したAIエージェントとの連携を実現できます。

※ AIエージェントとWMC間のやり取りは文字列を用いて実施します。WMCに登録したシナリオのうち、入力パラメータ、出力パラメータにファイル型を設定しているシナリオは使用できない点にご注意ください。

1.MCPサーバー対応

利用イメージ



2. その他の改善

画面・機能	主な変更内容
タスクカレンダー画面	旧バージョンでダッシュボードで表示していたカレンダー(週表示、月表示)について、カレンダー専用の画面に表示するようにしました。
シナリオ画面、 スケジュール画面	スケジュール登録時に旧バージョンで可能としていた複数WinActorを指定できるようにしました。
ライセンス画面	ライセンスグラフの表示データ数として60を選択可能としました。これにより、1時間の情報を分単位で確認する使い方ができるようになります。
シンプルモード画面	WinActor選択を機能タグを考慮したリストから行えるようにしました。
共通	右メニューにサービス利用規約へのリンクを追加しました。これにより、WMC画面からのサービス利用規約の再確認が容易になります。

ご利用中のお客様への影響

WMC Ver.4.0 で追加された主な機能についてお客様への影響を以下に示します。

項目番号	機能	お客様影響
1.	MCPサーバー対応	現在ご利用中のお客様への影響はありません。ただし、AIエージェントから呼び出す設定をおこなったシナリオを、更新/削除対象として指定した場合はエラーとなりますのでご注意ください。
2.	その他の改善	新しい画面の追加等がありますのでオペレーションマニュアルを参照の上、表示内容や操作方法の確認をお願いします。



WinActor
Manager on Cloud[®]

WinActor Manager on Cloud
Ver.4.0 リリースノート

NTTアドバンステクノロジ株式会社

© 2026 NTT ADVANCED TECHNOLOGY CORPORATION

本書は著作権法上の保護を受けています。本書の一部あるいは全部を無断で複写、複製することは禁じられています。
本マニュアルの内容は予告なく変更される場合があります。

WMC-R-2026-0216